説教余滴 2019 年 6 月 16 日『桐の木』

先週 8 日土曜日午前、気分転換に近くを一周しようかな、と思い外へ出ました。社会館から左へ視線を動かすと田浦トンネル。その手前に廃屋があり、大きな桐の木が立っています。立派な姿ですが、夏から秋にかけて枝葉が歩道・車道にたくさん落ちて、近隣の人には迷惑な存在になっていたのではないか、と感じていました。
小型トラックが二台停まり、四人の男性が工事をしています。なんと、桐の木を切り詰めています。一台は柱上作業車、その上で一人が上から順に切り払って行き、下に落とします。二人が車に運びます。一人が車上で整理しています。実に手際がよい。

昼過ぎに見ると、桐の木は、根元から消えていました。切り株が、残りました。

桐は、ゴマノハグサ科の樹木。国内の木材としては最も軽く、湿気を通さず、割れや狂いが少ないことから高級木材として重宝されてきました。箪笥（たんす）の材料として用いられることも多く、桐箪笥は高級家具として知られます。
キリは成長が早く 10 年～15 年で用材として利用できるため、かつては女の子が生まれるとこの木を植えて、嫁入り道具をつくったといいます。

キリは鳳凰の止まる木として神聖視され、葉や花を図案化した桐紋は、桐花紋（とうかもん）とも呼ばれ、日本でも平安時代の頃から天皇の衣類の刺繍や染め抜きに用いられるなど「菊花紋章」に次ぐ高貴な紋章とされました。
天下人たる武家が望んだ家紋としても有名で、豊臣秀吉も天皇から「五七桐」を賜りました。
近代以降も五七桐は「日本国政府の紋章」として大礼服や勲章（桐花章、旭日章、瑞宝章）の意匠に取り入れられています。菊花紋章に準じる国章としてパスポート、金貨の装飾などに使われています。現在の五百円硬貨の表にもキリがデザインされています。